学校番号	T3011

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校数学Ⅰ（実教出版）						
副教材等	教員作成教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

週に１回の授業です。理解するためには授業以外での学習も必要です。
まずは、自分の中の「わからない」を見つけましょう。説明文や式変形の、どこがわからなくなったのかをはっきりさせましょう。そうして見つけた「わからない」を「わかる」に変えるには、説明を繰り返し聞いたり方法を真似してみたりしながら、時間をかけて考える必要があります。授業のなかでしっかり考える時間を大切にしましょう。わかったと感じたときは、繰り返し練習問題を解くなどして、「わかる」を「できる」に変えましょう。課題提出を定期的に要求します。授業時間外の学習でも、何がわからないかをはっきりさせながら課題に取り組むようにしましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
二次関数、集合と論証及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、二次関数、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	数や式、関数を目的に応じて適切に変形する力、データの散らばりや関係に着目して適切な方法で分析する力を身に付けている。 数学の事象において、論理的に考察し、その過程について表現する力を身に付けている。	自ら考える姿勢を持ち、粘り強く考え、数学的に考察しようとしている。 自分の学習態度を振り返り、考えをより深めようとしたり改善しようとしたりしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	関数とそのグラフ	・1 次関数とそのグラフ ・2 次関数とそのグラフ	a:2 次関数のグラフの特徴を理解し、式からグラフを書いたり変形したりする技能を身に付けている。 b:2 次関数の式を変形した上で、その式からグラフの特徴を考察する力、2 次関数の式とグラフの関係性について多面的に考察する力を身に付けている。 c:中学校で学習した内容(1 次関数のグラフ)をふり返って考えようとしている。	プリント 小テスト 定期考査 など	プリント 授業観察 など	プリント 発問への反応 Google フォーム提出 など
	2次関数の値の変化	・2 次関数の最大値・最小値 ・2 次関数のグラフと 2 次方程式 ・2 次関数のグラフと 2 次不等式	a:2 次関数の最大値や最小値、2 次不等式の解と 2 次関数のグラフとの関係について理解している。 b:日常の事象について、2 次関数の最大値・最小値を利用して考察することが出来る。 c:日常の事象について 2 次関数を活用して問題解決しようとしている。			
後期	集合と論証	・集合と要素 ・命題 ・いろいろな証明法	a:集合に関する基本的概念を理解し、命題の真偽や必要条件、十分条件を調べる力を身に付けている。 b:集合と命題の関係を考察し、その過程を数学的に表現することが出来る。 c:様々な命題について、粘り強く証明しようとしている。			

	データの分析	・統計とグラフ ・度数分布とヒストグラム ・代表値 ・外れ値 ・相関関係 ・仮説検定の考え	a:代表値や四分位数などの意味を理解し、データから読み取る力を身に付けている。 b:データの読み取り方や仮設検定の考えを理解した上で、身の回りの事象を批判的に考察することが出来る。 c:身の回りの様々なデータについて、適切なグラフで表したり代表値や散らばりを調べたりして、適切にデータを分析しようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度